



眼瞼下垂症とは、上まぶたを挙げる筋力不足により、目を開ける際に十分な力を発揮できず、目を開けにくい状態を指す。先天性と後天性のものがあり、慶友形成クリニックスは、美容医療全般を提供する美容外科・形成外科のクリニックスだ。豊富な症例を誇る眼瞼下垂症の手術に関しては、二重まぶたの作り方の一つとして位置づけられているが、最近では頭痛を改善できる可能性があることから、これを目的にクリニックスを訪れる患者が多いという。

眼瞼下垂の手術で頭痛の改善に期待

都営地下鉄新宿線・船堀駅すぐ近くの慶友形成クリニックスは、美容医療全般を提供する美容外科・形成外科のクリニックスだ。豊富な症例を誇る眼瞼下垂症の手術に関しては、二重まぶたの作り方の一つとして位置づけられているが、最近では頭痛を改善できる可能性があることから、これを目的にクリニックスを訪れる患者が多いという。

を持ち上げる筋肉である眼瞼挙筋の機能不全や、眼瞼挙筋と眼板をつなぐ挙筋腱膜の弛緩によって目が十分に開いていない状態を指す。先天性と後天性のものがあり、慶友形成クリニックスでは、加齢変化や目の酷使による後天性のものを中心に治療している。「挙筋腱膜が弛緩すると、代償的に額の筋肉である前頭筋を使って目を開ける努力性開瞼を行っているため、頭痛を引き起こしやすくなります。頭痛の原因は他の病気の可能性もあり、頭痛の症状では眼瞼下垂の手術に健康保険は適用されません。しかし、この手術によって頭痛が改善される症例は非常に多くあります」と蘇雅宏院長は語る。

若い人でも頭痛の症状が出やすい。ただし、眼瞼下垂症は挙筋腱膜がゆるんだり、眼板から外れたりした状態をいうので、一重まぶたで目が細かいだけでは眼瞼下垂症と診断されない。しかし、緻密には眼瞼下垂症でなくても、眼瞼下垂の手術そのものは自然な視野を確保し、頭痛を改善させる効果が期待できるという。保険適用の可否については、眼瞼下垂症と診断され、まぶたが瞳孔を覆っている範囲によって決められる(※)。

慶友形成クリニックス

美容目的だからこそ機能を損なわない、質の高い美容医療を目指す



院長 蘇雅宏
日本医科大学 形成外科専門医

筋肉を切らない 挙筋前転法を採用

二重まぶたの手術の多くは、実際に目を大きくするのではなく、目元に変化を加えることで、大きくなったように見せる擬似的な方法だ。蘇院長は「本当に目を大きく見せるには眼瞼下垂の手術しかありませんが、人工的な手を加えるわけですから、単純な美容目的の場合は慎重に考えていただきたいですね」と話す。

眼瞼下垂の手術には、挙筋前転法や挙筋短縮法などがあるが、蘇院長が主に採用しているのは前転法だ。これは挙筋腱膜と眼板を正しい位置に再固定する方法で、筋肉である眼瞼挙筋を傷つけることなく、自然な開瞼状態が得られるという特長がある。

一方の短縮法は、眼瞼挙筋の縫合や切除を行うので、一般的に前転法で効果がない場合や重度の眼瞼下垂症にしか適応されない。ただし、短縮法の一つには、まぶたの表面を切らずに裏側(結膜側)から糸をかけて眼瞼挙筋を縫い縮めるという方法もある。この方法には、まぶたの表面に傷跡が残らず、術後の腫れも少ないという大きな利点がある。しかし、眼瞼挙筋に付随するミューラー筋に影響を与える可能性が高いという。

「ミューラー筋は自律神経系に関係するといわれていますが、明確な機能はわかっていません。そこに糸をかけても何ら支障はないと考えられますが、少しでも人体に影響する可能性がある限りは慎重に検討すべきだと思います」と蘇院長。美容目的だけなら、わずかでも機能に影響を与えられる可能性がある治療法は、できるだけ選択しないというのが蘇院長の方針だ。慶友形成クリニックスは機能と外見の両面を重視した美容医療を追求し続けている。取材/駒井一行

医療法人社団
慶友形成クリニック
診療科目：美容外科、形成外科、美容皮膚科
診療時間：10:00～19:00(完全予約制)
〒134-0091 東京都江戸川区船場3-5-7(ナビル5F)
TEL.0570-00-3361(全国共通電話番号)
<http://www.k-u.jp/>
神戸院
〒651-0085 兵庫県神戸市中央区八幡通4-2-12
フラワーロード高ビル6F
眼瞼下垂の保険適用外科金 420,000円



高い清潔度を保つクリーンルーム